
17話 アレルギー

吉川明人

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

17話 アレルギー

【Nコード】

N2093K

【作者名】

吉川明人

【あらすじ】

シヨートシヨートです。

恐竜絶滅の秘密。

ひどいクシャミと鼻水の音が研究室に響く。

ここは恐竜絶滅の原因を研究する施設の一式。

部屋には2人。

フィールドワークで集めた資料の整理を進めている。

2人はひどい花粉症のため、この時期はデスクワーク中心に研究している。

クリーン設計の室内にいても、1人はくしゃみが、もう1人は鼻水が止まらない。

「クシヨッ！ あゝ頭がぼーっとする。資料にツバつけるわけに……クシヨッ！ いかないからなあ」

「ああ、それに熱っぽい。薬飲んでるのに、でんでん効いでる気がしない……チーン！」

2

「やな季節だよクシヨッ！」

「オレ4年前まで花粉症じゃなかったのに……チーン！」

「毎年、花粉の量が増えてクシヨッ！ 許容量を超えたたんクシヨッ！ 発症するらしいけどクシヨッ！」

「じゃあ、ここからますますオレだちみだいなのが増えるのか？……

チーン！ 仲間が増えるみたいでホッとする……チーン！」

「そういえば今日の花粉は……クシヨッ！ どうなんだろう」
ネットで花粉予報を見ると、昨日にも増して飛散している。

「クシヨッ！ うわ、見なきゃよかった」

「……チーン！ ヒドいなあ、この時期が終わっても別の花粉が待

つでやがる。1年中花粉だらけぞ……チーン！」

「まったくだ。クシヨッ！ クシヨッ！ クシヨッ！ それはそうと、最近やたら地震多くなっただな」

「ああ、地球のあちこちで活断層が活発になってるんだろ……チーン！」

「ネットのクシヨッ！ あっちこっちで大地震が近いとかクシヨッ！ うわさになってるぜ」

「素人のうばさを信じるのかよ、科学者らじく……チーン！ ないな」

「そりやそうクシヨッ！ だなクシヨッ！ 俺たちの悩みは当面クシヨッ！ こっちのクシヨッ！ ほうだ」

「ぞうだな、このあいだ……チーン！ 掘り出した絶滅直前まで生きてた恐竜の資料もぜいり……チーン！ したい」

「大切なクシヨッ！ 資料に鼻水つけるなクシヨッ！ よ」

「……チーン！ 分かってるよ。チューブつけながだでも、あ……垂れた」

「資料はクシヨッ！ 汚すなよ！」

2人の研究は花粉との戦いだった。

「今さらなんだがクシヨッ！ 恐竜って何で絶滅したのかなあ」

「俺たちはそれを説明することが……チーン！ 仕事だろう」

「クシヨツ！ そうなんだが、解明するほど新しいナゾにぶつかる繰り返した。いったいクシヨツ！ どこまで解明すればいいか分からなくなる」

「いいんだよ。俺たちに解明できなくても、俺たちの……チーン！ 研究を礎にして将来の研究者がひぎづいで……チーン！ くれると考えれば、少しは気が楽になる」

「俺はクシヨツ！ 俺が解明したいなクシヨツ！」
「ホントは俺もそうだ……チーン！」

その時、ゴオオオオという地鳴りとともに地震が起こり、研究室はミシミシ揺れ、棚にあった資料のいくつかが床に落ちた。

「……今のは、けっこう大きかったな」
「ネットで情報見よう」

アクセスすると、規模は大きかったが津波の心配はなく、被害状況はまだ分かっているようだ。

「起こってすぐだからクシヨツ！ まだ被害なんて分からないだろうけど……」

「とにかく何もなければいいな」

「ああ……。恐竜の時代も火山性の地震が頻発クシヨツ！ してたよな。不安だったろうな」

「そりゃそうだろう、地震の上に噴火なんだ。原因が分かっている人間でもこばいよ……チーン！」

「年々多くなっているよな。地震だけでなくクシヨ！ 台風も大型化してるし。恐竜もひどくストレスだったろうクシヨッ！」

「でも種族として1億年以上生き抜いた。絶滅の原因とは考え……チーン！ られない」

「一因とはクシヨッ！ 考えられないか？」

「そんな弱い種族ならとつくに滅んでいる……チーン！」

「そりゃそうかクシヨッ！」

残念だが彼らには、そしてその後の人類には、ついに恐竜が絶滅した理由を解き明かすことは出来なかった。

あれから数年たったある日、人類は地球規模の天変地異に襲われたのだ。

未曾有の大地震、台風、大洪水……。

あれほど隆盛を誇った人類の幕引きは、あまりにもあっけなかった。

時は過ぎ、生命はその力強さを取り戻していた。

地上は、また生き物の活気で満ちあふれている。

その中に、人類がいた地位を獲得した生き物がいた。

彼らはかつて人類がいたことも、恐竜がいたことも知っている。

……その滅びた原因も。

恐竜も人間も増えすぎたのだ。

地球の許容量を超えて、くしゃみ、鼻水を起こすほどに。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2093k/>

17話 アレルギー

2011年10月6日19時51分発行